

研究協力のお願

岐阜県総合医療センターでは、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は、下記のお問い合わせ先までお願いいたします。

最後に、研究への参加をお断りになった場合でも、将来にわたって当センターにおける診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究名：高齢者の症候性と無症候性総胆管結石に対する内視鏡治療成績の比較検討

1. 研究対象者および研究対象期間

2010年1月から2020年12月に症候性もしくは無症候性総胆管結石に対し、内視鏡的治療を施行した80歳以上の未処置乳頭患者様

2. 研究目的・方法

総胆管結石の多くは腹痛や黄疸が見られ、急性胆管炎・胆石性膵炎など合併することも多く、重症化して致命的になる前に治療を行うことが提唱されている。一方、検診などで偶然発見される無症候性総胆管結石に対しても、現行のガイドラインではERCPによる内視鏡的治療が推奨されているが、内視鏡処置関連偶発症のリスクもあることから、特に高齢者において積極的な治療を行うかどうかは個々の症例毎に慎重に検討する必要がある。さらに、無症候性総胆管結石患者におけるERCP関連の偶発症、特にERCP後膵炎のリスクは、症候性総胆管結石に比べて高いとの報告も散見されるが、この点については十分な検討がなされていない。

以上のことから、本試験では高齢者の症候性もしくは無症候性総胆管結石に対して、内視鏡的治療を施行した未処置乳頭症例を対象とし、症候群と無症候群の治療成績を後方視的に比較検討することを目的とした。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢・性別・抗血栓薬の有無・術後再建腸管・総胆管結石数・総胆管結石最大径
胆管径・傍乳頭憩室の有無・胆嚢結石の有無

(症候群における)治療介入理由、胆管炎重症度

主要評価項目：症候群と無症候群の偶発症発生率

副次評価項目：症候群と無症候群の初回結石除去率、臨床的奏効率

4. 個人情報の取り扱い

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

5. お問い合わせ先

地方独立行政法人岐阜県総合医療センター

消化器内科 丸田 明範

電話番号：058 - 246 - 1111